

計画第3期 小中一貫教育とCSの充実へ

# 小中一貫・CS 通信

NO. 42 R4. 9. 29 幕別町教育委員会 学校教育推進員

十勝の人口 35 万人のうち 4 万人が感染したと言われる感染拡大も次第に減少傾向を示すようになりましたが、ここにきてまた増加に転じてきました。もうしばらく辛抱が続きそうです。感染対策を施しながら粛々と教育活動を進めましょう。今月は、CS の活動が進む札内東学園の取組みと、糠内学園やちゅうるい学園の小中一貫教育の様子を中心にお知らせします。

## あふれる笑顔！時間が足りないほど盛り上がる熟議！ 第2回学校運営協議会 8/30 札内東学園

8月30日(火)、札内東学園の第2回運営協議会が札内東中学校を会場に開催されました。

堀川会長、大石学園長の挨拶の後、横山副学園長が「学校運営協議会とは何か」をテーマに情報提供しました。Society5.0の時代を生きることになる子どもたちにどんな資質・能力を育てるかがいま問われていて、そのために地域と学校が協働して子どもを育てていくコミュニティ・スクールが進められていること、PTAや地域学校協働本部の、運営協議会との違い等々が説明されました。



引き続き、横山副学園長が統括ファシリテータを務め、2グループによる熟議が行われました。グループファシリテータとして事務局次長の教頭先生2名がグループの話し合いを進めました。前半は、「昔の子どもによさ（過去）、今の子どもによさ（現在）」について個人で考えた後、意見交流を行いました。「昔の子どもはたくましかった。」「体力があった。」「弱いものをかばうガキ大将文化があった。」など自分の子ども時代を懐かしむかのような意見が多く出されました。今の子どもについては、

「豊かで便利な生活がある。」「ICTに強い。」「優しい。」、一方で「か弱いところがある。」との意見が出されていました。グループ間の交流は、グループファシリテータが違うグループに入り、話し合いの様子を伝えました。

後半は、「未来の子どもたちへの願い、そのためにやれること」をテーマに熟議を行いました。熱のこもった話し合いとなり、時間が足りないという声も出るほどでした。「AIに負けない子に育ててほしい。挨拶をしっかりとできるようになってほしい。」、そのために人間性を磨くこと、たくさんの人と交流し、直接体験を託すること、地域の大人たちから挨拶をし、声をかけ、見守っていくこと等々の意見が出されました。最後に、各グループからの発表で全体交流をして熟議を終了しました。

10月の運営協議会では、次年度の経営方針策定の参考になるような熟議を行う予定となっています。



## 小中一貫教育課程作成へ着々と！ 教科部会 9/12 糠内学園

糠内学園では、9月12日(月)に小中一貫教育課程作成に向けて全体会・教科部会を開催しました。全体会では、各教科で育成したい資質・能力を明らかにし発達段階に応じた学習の重点を明らかにする、という大きなねらいを改めて確認し、その後各教科部会に分かれて作業を進めました。

今後、12月22日を目途に原案を作成し、最終検討を加えて完成させる予定となっています。計画的にミッションを進めていく糠内学園です。



## 地域学校協働本部会議開催 9/6 札内東学園

9月6日(火)、札内東学園の地域学校協働本部の会議が開かれました。昨年度までは、サポーターの協力できる活動をもとに学校教育活動の支援を行おうとしていましたが、学校が期待する支援の内容と必ずしも一致するとは言えない状況から、両者の活動をすり合わせる必要が出てきたため開催されたものです。



地学協働活動プロデューサーの下山さんを中心に、①地域協働本部の活動内容や組織体制の在り方を改めて確認すること、②サポーターと学校とが互いの考えを出し合い共有すること、③今後の活動の方向性を決めること、の3点を目標にして話し合いが進められました。

会議では、サポーターの方々がいろんな思いをもって参加していただいていることを改めて知ることができ、また、学校と協働していくために、学校のことをもっとよく知らなければならぬことが確認されました。

今後、下山プロデューサーと堀川コーディネーター、岡部コーディネーターの3人で打ち合わせをもち、地域学校協働本部のメンバーによる学校訪問の計画を立てることにしました。連絡方法としてライングループの作成も進めることにしています。

たくさんの方々の思いが少しずつ形になって動き出してきました。焦らず、でも確実に、一步一步進んでいる札内東学園の地域学校協働活動から目が離せません。

## 第2回合同部会 熟議も取り入れて開催 8/17 ちゅうるい学園

8月17日(水)、ちゅうるい学園第2回合同部会が開催されました。この日は前半に、小中それぞれの学校評価アンケート結果についての熟議として、4つの部会でそれぞれ目指す子ども像にかかわる項目を分担しKJ法にて意見を出し合い、全体で交流しました。後半は、部会ごとに、前半の熟議で出された課題を解決するためにどうやって指導していくかを「1学期の振り返り」と「2学期からの実践」の2本柱で話し合いました。



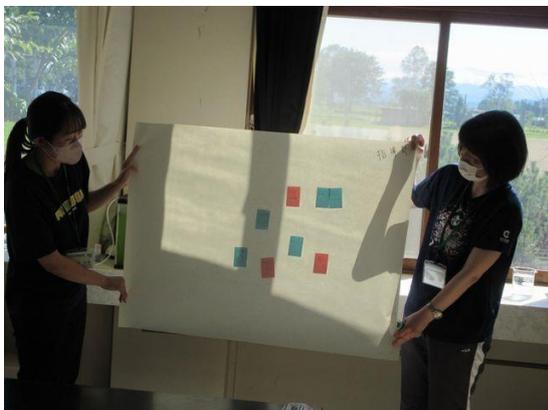
教務部会では、「学校で学んだことを日常生活に生かす」項目で、大人と子どもの評価に開きがあったことについて、子どもの意欲が高い部分を評価する一方、低い目標で満足している面もあることから、具体的な部分について児童生徒に確認しながら学習活動を進めていくこと、より高い目標を意識させながら取り組ませること等が話し合われました。また、相互授業参観交流や漢字検定・英語検定を今後も継続していくこと、乗入授業についても2学期さらに実践を深めていくこと、9年間を見通した家庭学習の在り方について、文書を配布し、指導・啓発していくことが確認されました。

指導部会では、「礼儀と感謝の心をもち優しい気持ちで人を思いやる子ども」にかかわって、全体的に高い数値であることを強みとして今後も児童生徒と関わっていくこと、保護者の強い思いを踏まえてそれぞれの立場から児童生徒の人間関係づくりを支援していくこと等が話し合われました。また、生徒会児童会交流を中学校登校の際に実施すること、長期休業中のきまりや自転車のきまりなどの交流に続いて、今後はクロムブックの持ち帰りや帰宅時間等についても交流を進め、連携して取り組んでいくことを確認しました。



保体部会では、「健康でたくましい体をもち根気強くチャレンジする子ども」にかかわって、SNSについてのメリットやデメリットを啓発し、児童生徒の心が満たされる時間の使い方について家庭とともに考え続けていくこと、生活リズムや睡眠、食事などについてなぜバランスをとらなければならないのか、児童生徒と学習を深めながら家庭にも啓発していくこと、チャレンジの項目の数値がさほど高くないことからチャレンジすることや粘り強くがんばることが自発的なものとなるよう学習を進め家庭にも啓発していくことが話し合われました。また、小中合同新体力テストは今後も継続していくこと、今年度無事に終了できた小中合同研修会について、次年度は消防署から講師を招きAED講習を行う予定とすること、乗入授業はスキーやスケートでも実施可能か調整していくこと、食育授業については、中学卒業後一人暮らしをしなければならぬ生徒もいることから一人でも生きていけるような内容にテーマを絞り9年間を見通して進めていくことが確認されました。

研修部会では、「夢と誇りをもち仲間と未来を語るふるさとを愛する子ども」にかかわって「責任」について学級内も含めて人とのかわりを注視し指導していくこと、「ふるさと」に



ついて地域の人材活用や交流を計画的に深め、発信・発表していくこと、「夢・貢献」について地域行事等に積極的に参加し体験・交流を深めていくこと等が話し合われました。また、6月に実施できた小中共通の研修内容の実践交流について、2学期も8月からできるだけ交流できるように配慮して進めていくこと、冬にICT関係で小中合同研修会を開催すること（現在講師の選定について関係各所と調整中）、授業での言語活動について、視点を定めてお互いの実践を深めていくことが確認されました。

小中一貫教育が確実に進んでいるちゅうるい学園の今後がとても楽しみです。